

岡山第2工場増築

金属加工のハリキ精工(大阪市) どの採用される無段変速機(CVT)のソレノイドバルブの需要が増加していることに対応。2019年までに生産能力を約3割引き上げる。
(鳥越謙一)

ハリキ精工 来年3月本格稼働



自動車部品などの生産体制強化に向け、増築する岡山第2工場

ソレノイドバルブは、加速や減速といったアクセルの動きを油圧に変えて変速機のギアシフトを制御する円筒状の部品(長さ6センチ、直径2センチ程度)。同社は鋼材の切削、研磨、部品の精度測定など一連の工程を手掛け、3〜5センチ(1センチは千分の1ミリ)以内の誤差に仕上げる。

計画では、工場棟(鉄骨平屋2500平方メートル)の隣に鉄骨平屋約

9500平方メートルを整備する。8月に着工しており、来年3月の本格稼働の予定。CNC(コンピュータ)数値制御)旋盤8台を新たに導入するほか、既存工場から3次元測定器など一部の設備を移設する。手狭になっていた既存工場は空いたスペースを生かして生産効率を高める。投資額は約4億円。

第2工場はソレノイドバルブのほか、物体などへの衝突を防ぐ自動車のセンサー部品や内視



ハリキ精工が製造するソレノイドバルブ

自動車部品など 生産3割アップ

鏡部品など高い加工精度が求められる部品を生産。売上高は18億円と全社の約5割を占める(15年2月期)。

稼働後は、19年末までにCNC旋盤やNC(数値制御)研削盤などの加工機を現在の約120台から180台体制とし、同工場で手掛ける製品の生産能力を月産約500万点から640万点にアップさせる。従業員も10人増やし110人にする。

同社の国内生産拠点はほかに、金属を熱処理加工する岡山第1工場(美作市北山)があり、岡山県内で一貫生産体制を築いている。小林孝一常務は「当社の品質が取引先に認められ、自動車のほか医療関連の部品も受注が堅調に伸びている。両工場が連携して生産体制を強化し、業容を拡大したい」と話している。

ハリキ精工は1952年設立。資本金6千万円、売上高約38億円。従業員は約150人(パート含む)。82年に岡山第1工場を整備し、生産拠点を移した。同第2工場は92年操業。海外生産拠点はベトナム工場がある。